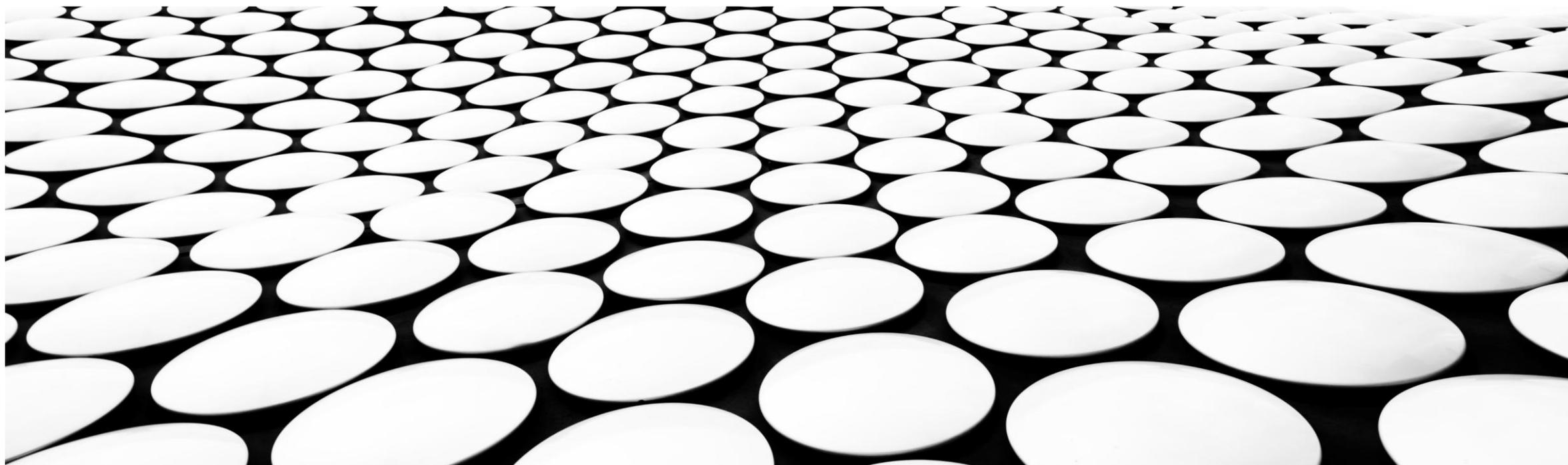


“未来ある子供達へ、「楽しむ」「競う」「挑む」スポーツ環境の提供”

# 『 SSCスポーツクラブ構想 』

一般社団法人 SAKATA SCHOOL CLUB 代表理事 西尾 博樹



# 一般社団法人SAKATA SCHOOL CLUBの概要

## 基本情報

社名	一般社団法人SAKATA SCHOOL CLUB (略称 SSC) 【法人番号：1-39900-0500-9088】
事業	中学・高校男女の部活動とクラブ活動の融合
所在地	〒998-0031 山形県酒田市浜田2-4-15-102
基金	1,000万円 (運営基金 1口10万円×100口見込)
創業	2024年10月1日
代表	代表理事(兼コーディネーター) 西尾博樹

## 事業目的

スポーツの普及を図ることにより、地域の健全な生活に寄与し、スポーツを通じて地域の活性化を目指す。

### 代表者の経歴

一般社団法人SAKATA SCHOOL CLUB

代表理事 西尾 博樹

- 1988年3月 東海大学体育学部 卒業
- 2009年9月 一社)日本バレーボールリーグ機構 入職
- 2014年11月 アランマーレ山形 入団(立上げ)
- 2021年4月 日本トップリーグ機構GM賞受賞
- 2024年8月 アランマーレ山形退団後SSCの立上

# 現状と今後について



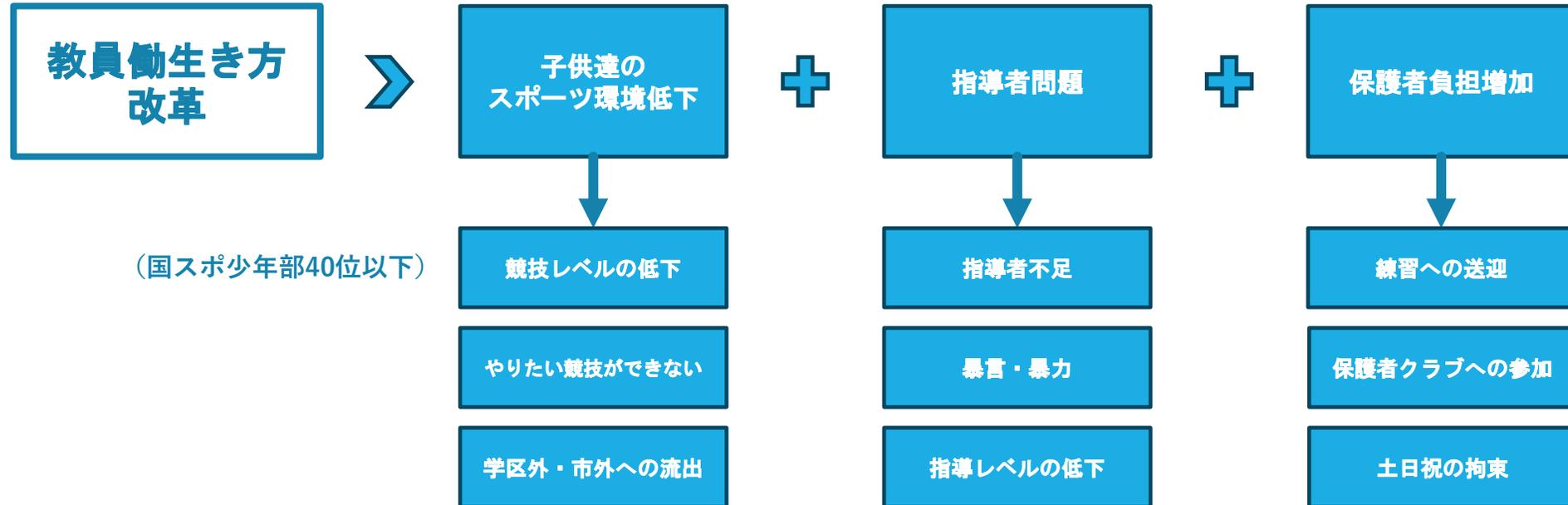
2025年5月に、山形県人口が100万人を割込むことが確定した。  
酒田市においては、2025年の人口が9.5万人を下回る予測が立っている。  
10～19歳の子供の人口は、2025年6715人（全人口の7.6%）、2035年は5283人（全人口の6.5%）、78.7%まで減少することが予測されている。  
子供達の教育やスポーツ、文化活動も将来を見込んだステージを作らなければいけない。  
現行の部活動においては、休日の活動を民間へ移行、近い将来休日以外も民間への展開が唱えられている。  
その中で、教員の働き方改革、指導者の在り方、保護者の負担軽減が大きな要因となっている。  
競技団体、そしてスポーツ協会も同様にこの局面に真当たりしているが、行政だけではこの問題は解決するのが困難であり、今こそ行政と民間の協働性が重要になると考えている。  
酒田市においてはいまだに教育の中にスポーツがあるが、どこも教育とスポーツは切り離している。そうでないと双方困惑する中で物事が進み、最終的には子供達へ大きな不安を与えてしまう。  
周囲の市町村においては、クラブ化が進み、指定管理を民間へ移行している。  
クラブ化が進んでいくことで問題も多くある。  
適性のある指導者不足、継続的なクラブ運営資金確保、保護者の負担軽減などが多く報道されている。  
また、子供のスポーツに対する価値観も多様化していることもあり、当然学校や行政だけでは対応はできない。  
競技力を上げることも必要だが、楽しむスポーツも同時に必要と考える。  
人口が減少することで市の財政が苦しくなることは理解している。  
行政ができること、民間ができることの役割分担でこの改革ができれば幸い。  
1月30日に私の立場が無いことで提案は打ち切られたが、国が推奨しているクラブ化、そして人口減少が加速する中で山形、そして酒田として民間との協働事業で、子供達へ明るい未来を提供することを再度提案する。

# 現状の問題事項

現状の問題事項	状況詳細
教員の働き改革	週4日、日2時間以内で部活動時間の減少 → 保護者クラブによる活動補充
	土日祝への参加はNG（大会運営ができない）。
指導者不足	指導資格者の不確保、指導技術の低下、パワハラが増加。
	民間への移行で指導者不在での活動。
保護者負担の増加	練習参加への送迎（保護者共働きにより困難）。 ※送迎のある市外クラブへの加入
	休日のクラブ強制参加による負担。
	費用（月謝・用具費・遠征費等）の負担増。
練習会場の確保	部活動や総合型地域スポーツクラブが優先に確保している傾向がある。
	公共の用具使用が困難な競技がある。
	練習会場確保が困難。
資金確保	クラブ運営には一定の資金が必要だが、確保することが困難。 ※3年名以降はクラブ資金での運営が可能。
子供の市外流出	指導者や練習環境、送迎がある市外のクラブチームへ行く傾向がある。
競技の維持	人口減少により、一つの競技で数チームを抱えることが困難になる。
スポーツ協会の意識改革	人口減少に伴い、スポーツ協会と競技団体の意識改革は必須と捉える。

# 子供と保護者が抱える問題

“ 総人口、子供の人口減に加え、スポーツに携わる子供の数が減少 ”



# 酒田市人口推計

## 酒田市 の人口に関する主な指数

1980 年

人口 125622 人  
 年少人口割合 21.7 %  
 生産年齢人口割合 67.4 %  
 老年人口割合 10.9 %  
 後期老年人口割合 3.5 %  
 年少人口指数 32.2  
 老年人口指数 16.3  
 従属人口指数 48.4  
 老年化指数 50.5

2015 年

人口 106244 人  
 年少人口割合 11.5 %  
 生産年齢人口割合 55.9 %  
 老年人口割合 32.6 %  
 後期老年人口割合 17.5 %  
 年少人口指数 20.6  
 老年人口指数 58.3  
 従属人口指数 78.9  
 老年化指数 283.7

2045 年推計

人口 67776 人  
 年少人口割合 8.5 %  
 生産年齢人口割合 45.1 %  
 老年人口割合 46.4 %  
 後期老年人口割合 28.6 %  
 年少人口指数 18.8  
 老年人口指数 103.0  
 従属人口指数 121.8  
 老年化指数 546.7

<参考>  
 酒田市出生数  
 2002年 721人  
 2024年 365人 (▲50.6%)

## 酒田市 の将来推計人口 (2015年～2045年)

年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総数	106244	100398	94214	87891	81401	74618	67776
0～4歳	3458	3164	2762	2466	2206	1947	1697
5～9歳	4034	3411	3123	2727	2434	2174	1917
10～14歳	4676	3977	3364	3080	2690	2399	2142
15～19歳	4525	3947	3351	2835	2593	2263	2015
20～24歳	3258	3118	2709	2287	1931	1763	1535

< 2025年 vs 2035年 >

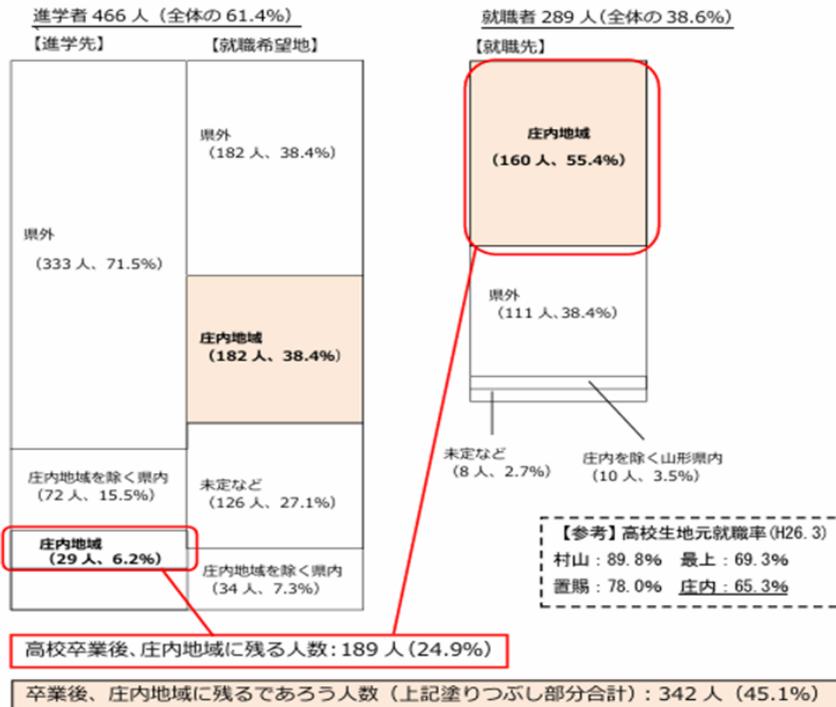
- ・ 2025年 10～19歳 = 6715名  
(人口全体 : 7.6%)
- ・ 2035年 10～19歳 = 5283名 (2025年比 78.7%)  
(人口全体 : 6.5%)

# Uターン・Iターン率について

## ④高校卒業後の地元定着割合

- 酒田市内の高校3年生に実施したアンケートでは、高校卒業後、庄内地域に残る割合は、進学者のうち6.2%、就職者のうち55.4%で、全体の25%弱にとどまっています。就職者の県内定着率は、県内の他地域に比して低い状況となっています。
- 進学者中、就職希望地を庄内地域と回答したものと、庄内地域に就職したものを合わせた、将来的に庄内に残るであろう人数は342人で全体の45.1%となっています。

■図表19 高校生の進学先と就職先（酒田市）



出典：「就職・進学に関するアンケート調査結果」(H26.5月、山形県庄内総合支庁)

行政においては、女性の活躍の場を拡大するために多大な貢献で成果が出てきている。

県内においては、移住者が増加傾向（2020年143人→2024年333人）にある。

移住理由は、子育て環境の充実や地元への就職、転職となっている。

しかし、酒田市の定着率は県内でも低く、酒田へ戻らない方々が多い。

移住率を上げるにも女性の活躍を提供するのは必要不可欠であるが、ここだけでは一定数までしか見込めない。

ここに付加価値を付け、今以上に多くの方が移住してくれる環境を提供することが必要と考える。

首都圏から移住する方が多くなってきているが、この理由が子供の教育環境が6割以上となっていることから、子供の教育と生活環境を類のないもので提供することが必要と考える。

健全な生活を送るための一つとして、他県や他の市町村にないスポーツ環境を提供することが一つの手法と考える。

一番はスポーツを楽しむ、そして競技力を上げる2路線でできることが一番。

そして学童保育もスポーツでフォローし、女性の方々が安心して働ける環境を提供していくことを提案する。

# 子供達の環境をどう考えるか？

R6年の出生数 420名予測 → 365名



2030年：≒360名の小学1年生（現20校 → 13校）  
2036年：≒360名の中学1年生（現7校 → 1～3校）

## 【酒田市の人口状況】

- ・ 総人口 : 93,555人
- ・ 0-14歳 : 8,675人（全体の9.3%）
- ・ 15-64歳 : 49,401人（全体の52.8%）
- ・ 65歳以上 : 35,479人（全体の37.9%）

※（出生+転入：2418人）－（死亡+転出：4283人）＝▲1,865人

※ 県内人口減少数 : 15,452人（3,145人転出超過／全体の75%）

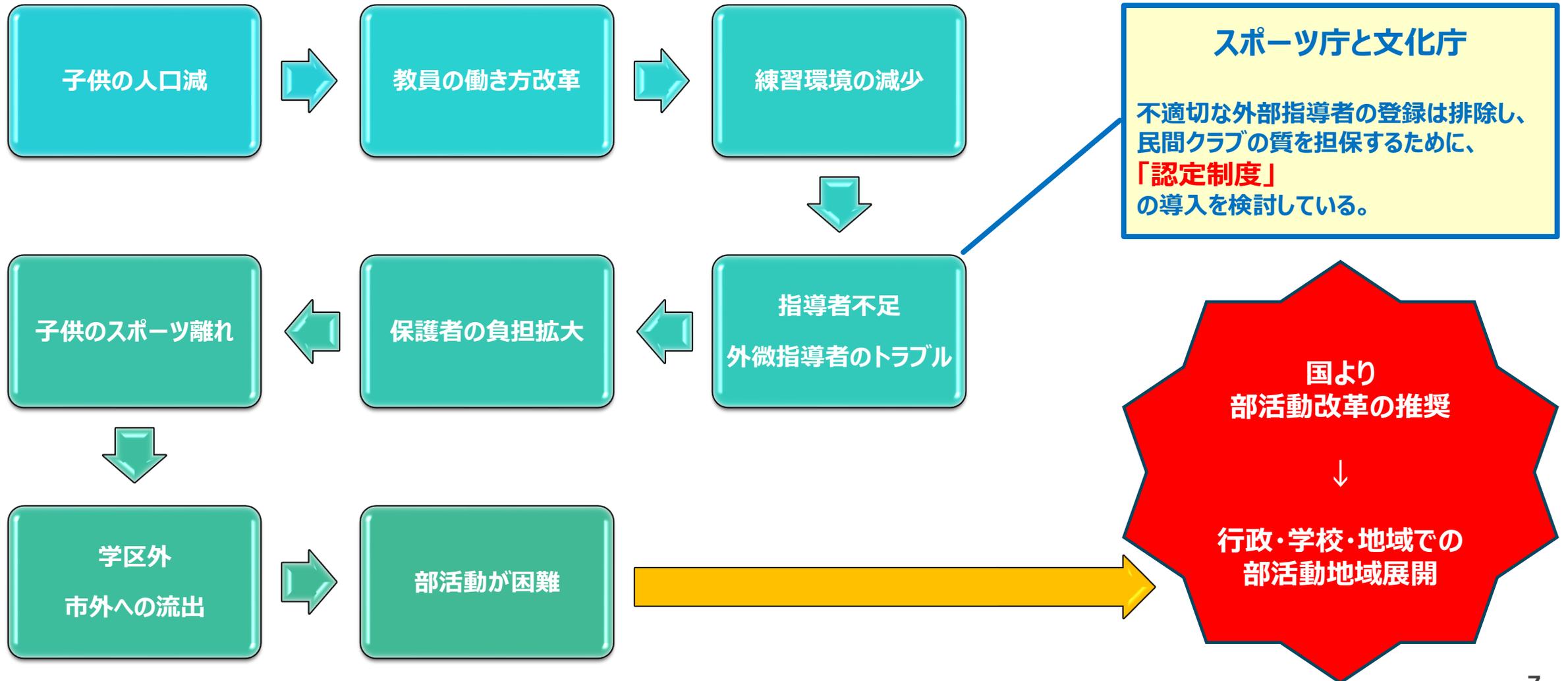
- ★ スポーツ・文化活動の環境を求め、「学区外」「市外」「内陸」「県外」への流出が現行ある。
- ★ 近い将来、中学校が1～3校になることを考えると学区は、多くの子供の道を狭めてしまう。多くの子供へ幅広い選択肢を増やすことも重要。
- ★ 都心の方々の地方転出では、6割以上が子供の環境を求めている。転入者を受入れることへの活用ができる。

**現状の既定路線では、人口減少の中子供達のスポーツをする環境が無くなってしまふ。**

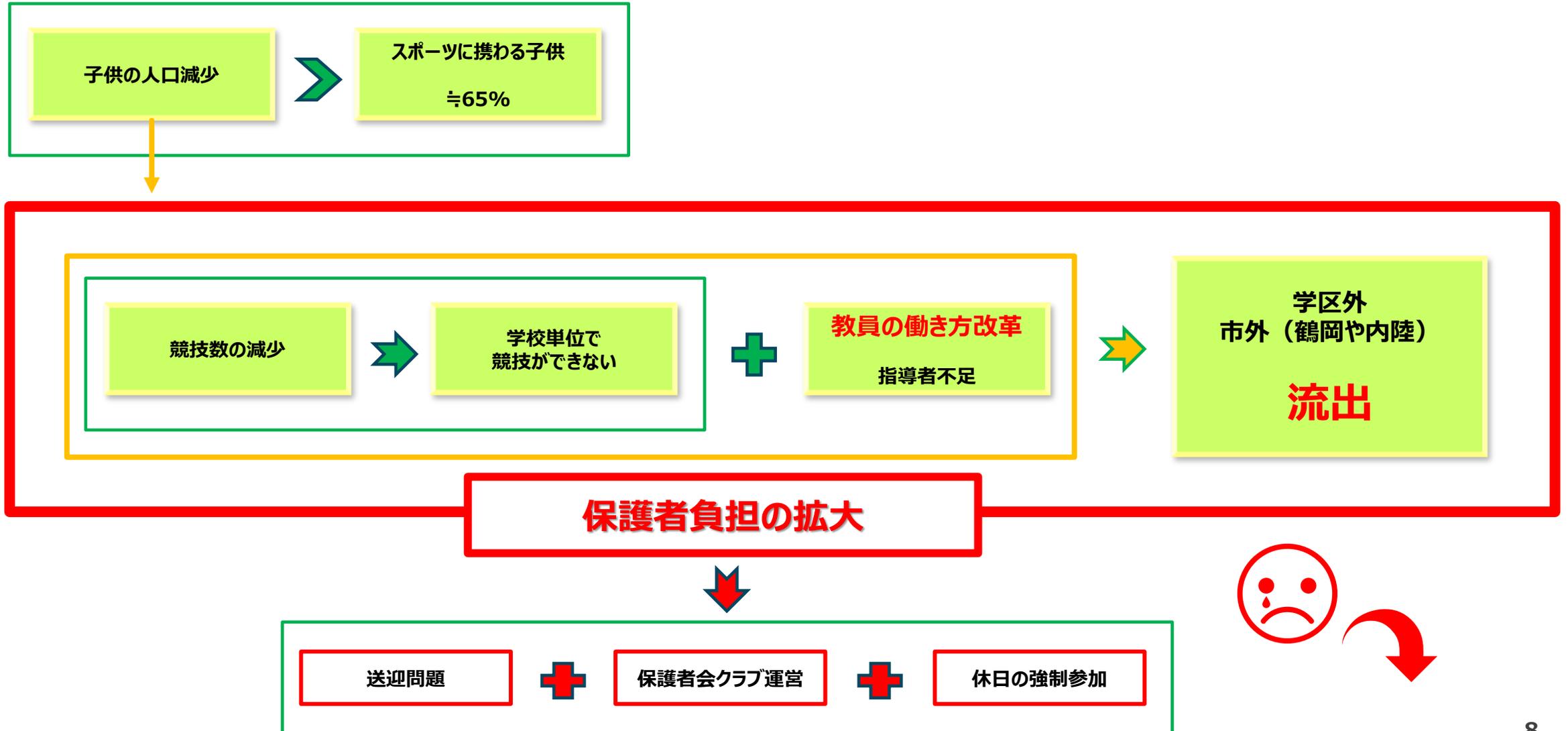
**競技力向上と楽心性スポーツの2本柱で新しいスポーツ環境を地域へ作っていくことが急務!!!**



# 子供達のスポーツ環境の現状



# 子供と保護者の状況



# 国の改革の考え

## 各論（個別課題への対応等）

### 1. 地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備等

- 地域全体での連携体制の整備（地方公共団体と関係団体等との連携・協働、コーディネーターの配置、学校との連携等）
- 運営に関するサポート体制の整備、運営を担う人材の確保・育成
- 組織体制・財政基盤の整備
- ICT活用による運営業務の効率化 等

### 2. 指導者等の質の保障・量の確保

- 多様な人材の発掘・マッチング・配置（人材バンクの設置・運用、大学生の活用促進、希望する教職員の兼職兼業等）
- 適切な資質・能力の保障、人材育成（研修会開催、公認指導者資格の取得促進、指導の手引き作成、適切な処遇の確保等）
- 平日（学校部活動）と休日（地域クラブ活動）の一貫指導 等

### 3. 活動場所の確保

- 学校施設等の有効活用（地方公共団体等による協力等）
- 認定を受けた地域クラブ活動の優先利用・使用料減免等
- 活動場所の管理運営の効率化等（ICT活用、鍵の受渡しへの負担軽減、指定管理者制度等の活用、学校施設の複合化等）

### 4. 活動場所への移動手段の確保

- 既存車両の有効活用（スクールバスやスポーツ団体のマイクロバス等）
- 地域公共交通との連携等（運行ダイヤの見直し検討、利用料への補助、AIオンデマンド交通や公共ライドシェアの活用等）
- 多様な政策分野との連携・協働等（介護・福祉・医療等）

### 5. 大会やコンクールの運営の在り方

- 生徒の大会等の参加機会の確保（地域クラブ活動の認定制度の導入に合わせた大会参加規程の見直し、行政・関係団体等による協議の場の設定等）
- 大会に参加する生徒への支援等（交通費・宿泊費の支援等）
- 大会の運営及び引率等の体制整備（地域クラブ活動関係者や保護者等の参画促進、大会運営の外部委託等） 等

### 6. 生徒・保護者等の関係者の理解促進

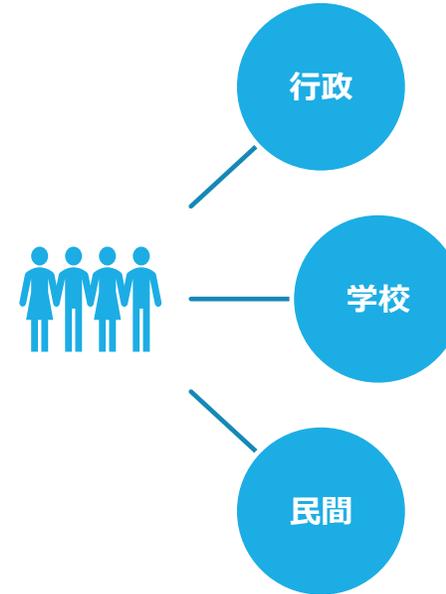
- 国における取組（ポスター・チラシ・動画等、ポータルサイトやSNS等を通じた広報、説明会・シンポジウム等の開催）
- 地方公共団体等における取組（学校と連携した生徒等へのきめ細かな情報提供等、体験会等の開催、生徒等の希望を把握するためのアンケート調査やワークショップの実施等）

### 7. 生徒の安全確保のための体制整備

- 事故や暴力・暴言等の不適切行為やいじめの防止（指導者・保護者・生徒等への研修等、組織的な体制整備、相談窓口の活用促進等）
- 事故や不適切行為が発生した場合の責任の所在の明確化
- 生徒及び指導者の保険への加入（傷害保険＋賠償責任保険）

### 8. 障害のある生徒の活動機会の確保

- 多様な地域の関係者の参画（障害者スポーツセンター、地域のバラスポーツ協会、放課後等デイサービス実施事業者等）
- 新たなスポーツ・文化芸術活動の機会の提供
- 障害者対応指導ツール等を活用した指導者の資質・能力の向上 等



互いの強みを生かした  
“ 協働事業 ”

# 酒田市の改革方針

## 方針

### 「部活動の地域移行を含めた 酒田市独自のスポーツ環境の整備」

- ◎ 可能なところから各中学校区を基本とし、休日の部活動を地域の諸団体との連携による運営に移行
- ◎ 将来的には、「生涯スポーツ」及び「競技スポーツ」の視点により、各中学校区の運営団体を整理・統合



### 運動部活動の地域移行に係る市民のスポーツ環境に関する将来像（案）

**【本市の課題】** 今後の地域スポーツの振興に向けて

- 幼児・児童数等の減少（選手の競技人口の減少）及び指導者の高齢化等、人材不足への対応
- 中学校の部活動地域移行への対応
- 生涯スポーツの振興、競技スポーツの視点による、市民のスポーツ環境の整備（年少期から青年期、壮年期、高齢期までのスポーツ環境の構築による人づくり）
- 市民スポーツに係る大学、企業スポーツ・プロスポーツ等との連携

**【本市の対応】** 地域移行を含めた酒田市独自のスポーツ環境の整備

- ◎ 可能なところから、各中学校区を基本とし、休日の部活動を地域の諸団体との連携による運営に移行
- ◎ 将来的には、「生涯スポーツ」及び「競技スポーツ」の視点により、各中学校区の運営団体を整理・統合

**各中学校区の整備をR8以降**

**生涯スポーツの視点** <誰でも気軽にスポーツ等に親しむ>

総合型地域スポーツクラブ等

体操、新体操、ソフトテニス、卓球、バレーボール、サッカー、ソフトテニス、柔道、剣道、和太鼓、バドミントン、野球、水泳、陸上、スキー、スケート...

**競技スポーツの視点** <専門的指導によるアスリート育成>

大学・企業スポーツ

選手・会員、指導者（教員）

スクール・コミュニティにおける「地域プロデューサー」【新規：RS-1】

関係する団体と学校との連絡・調整、団体の運営・指導の支援等

「連携」

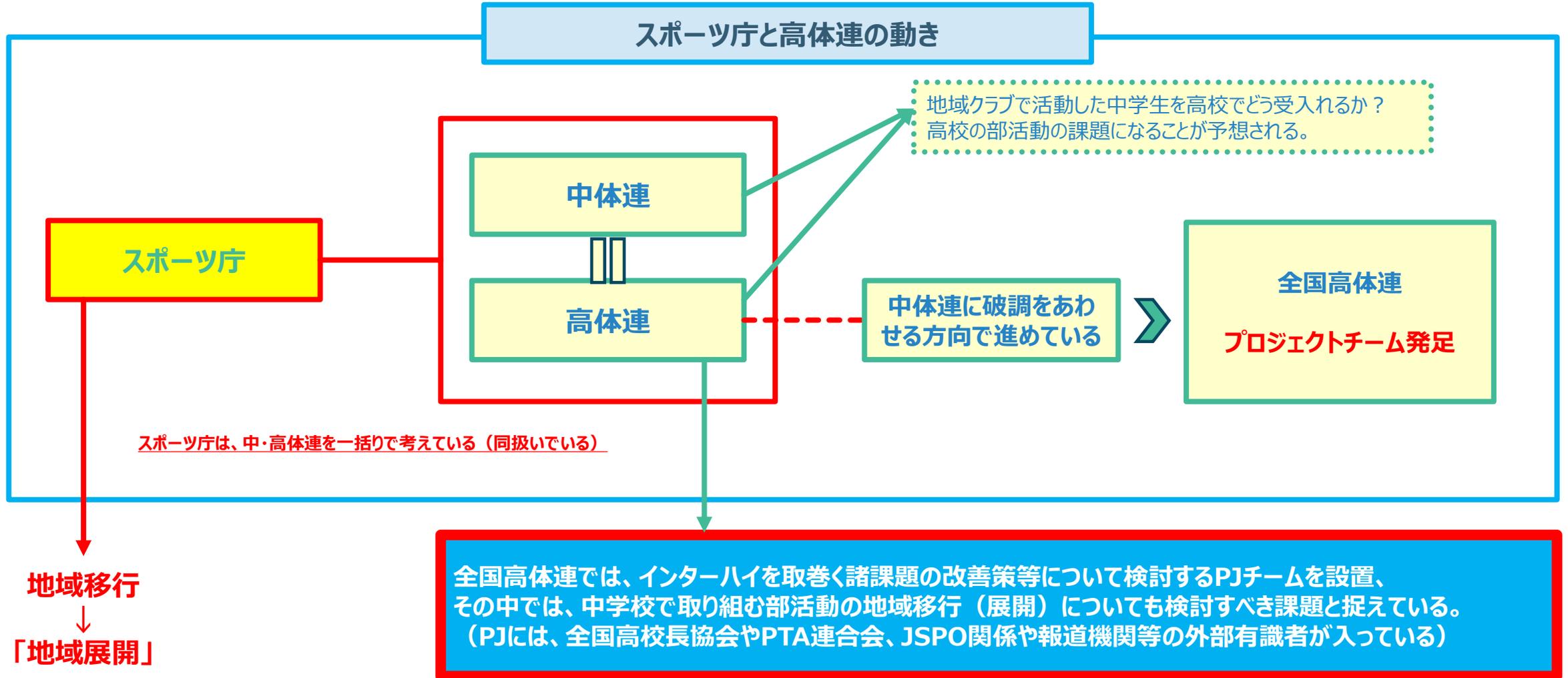
「整理」「統合」

※ 種目によっては、令和4年度から複数の中学校区による運用について検討・試行（実施）する。

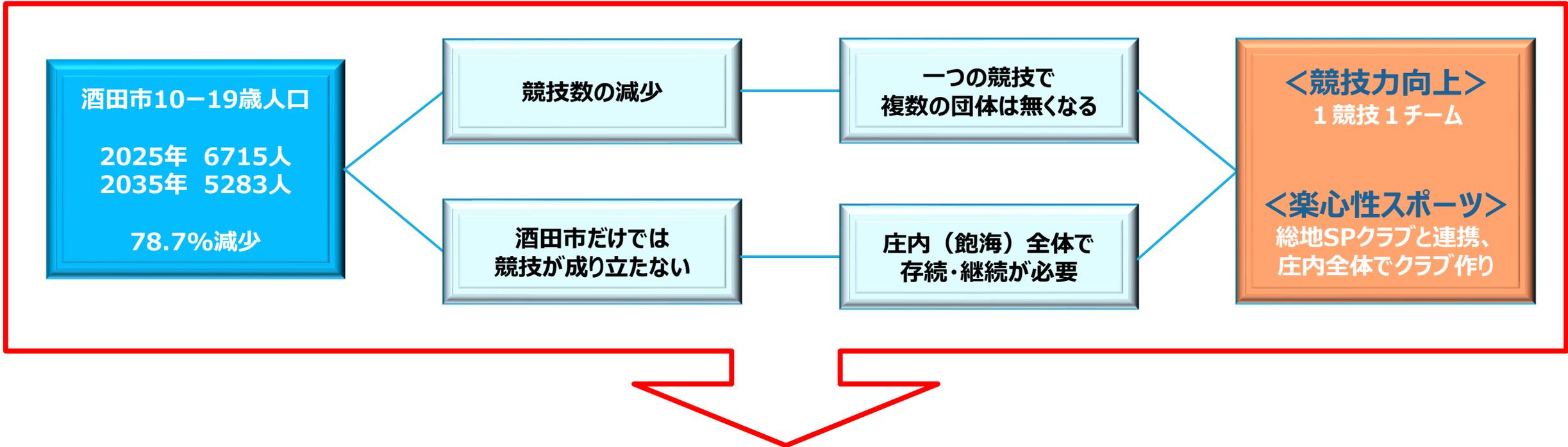
5月29日の指針説明時には人口減少を踏まえた考えは無かった。

総合型地域スポーツクラブの中で、学区ごとで競技を担い、それをクラブとして運営する方針。  
（学区によってはやりたい競技がないことが予想され、多くは保護者クラブの運営になることが予想される）

# 現在の高体連の考え (注意：2024年11月時点)



# 将来を見据えた構想で改革を!!!



子供の人口減により、一つの競技で複数のチームを運営することは困難となる。また、適正な指導者確保もできず、子供達のスポーツ環境は一層悪化することが予想される。

競技はできるだけ消滅させず、子供達に多くの選択肢ができる環境を作ることは必須である。

行政だけでは困難、スポーツ協会と民間が一体となる協働運営で、継続的に発展できる組織体制を作ることが必要と考える。

競技力向上に加え、楽心性スポーツを総合型地域スポーツクラブと協働し、幅広いスポーツ環境を構築することを提案する。

# クラブ化による問題点と解決方法、そして効果

## 問題点

## 解決方法

## 効果

適性のある指導者確保



- ◆ 競技団体が示す指導者資格を保持していること
- ◆ 競技団体やアランマーレのネットワークを活用した人選
- ◆ ガバナンスを遵守できる人物
- ◆ 人事管理は行政、指導については民間で管理



- パワハラ撲滅
- 高い技術指導の提供
- 市外への流出阻止

継続的な資金確保



- ◆ 洋上風力の基金の活用
- ◆ 商工会議所会員からの賛助会費
- ◆ 県外企業も含め、行政側からの紹介、斡旋
- ◆ 市内、県内からの協賛



- 専任の指導者確保
- ニーズに合った運営体制継続
- 保護者への負担軽減

練習会場確保



- ◆ 一番は行政からのサポートが必須
- ◆ 練習会場へ行くまでの送迎（スクールバスの活用）
- ◆ 学校との連携による確保
- ◆ 競技が円滑に行える場所の提供



- 安定、計画的な育成の確保
- 保護者負担軽減
- 予約、手続き等の排除による円滑化

保護者負担の軽減



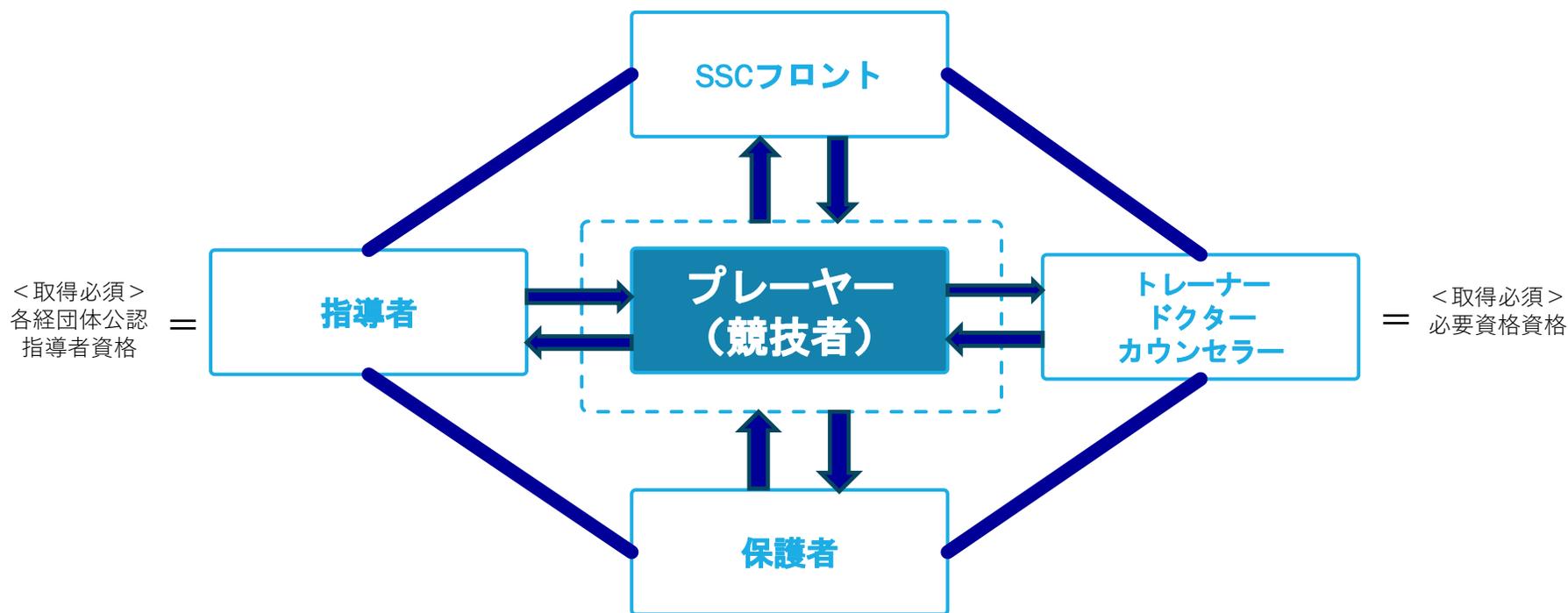
- ◆ 練習会場への送迎はクラブで行う
- ◆ 練習や遠征時の保護者サポートは無し
- ◆ 大会遠征費はクラブ側の負担
- ◆ 用具は全体で使用するものはクラブで準備
- ◆ 会費の奨学金制度導入



- 保護者自身の時間確保
- 女性活躍の場の拡大
- 子供のやりたい競技へ参加させられる

# <重要> これからのクラブ組織基本スタンス

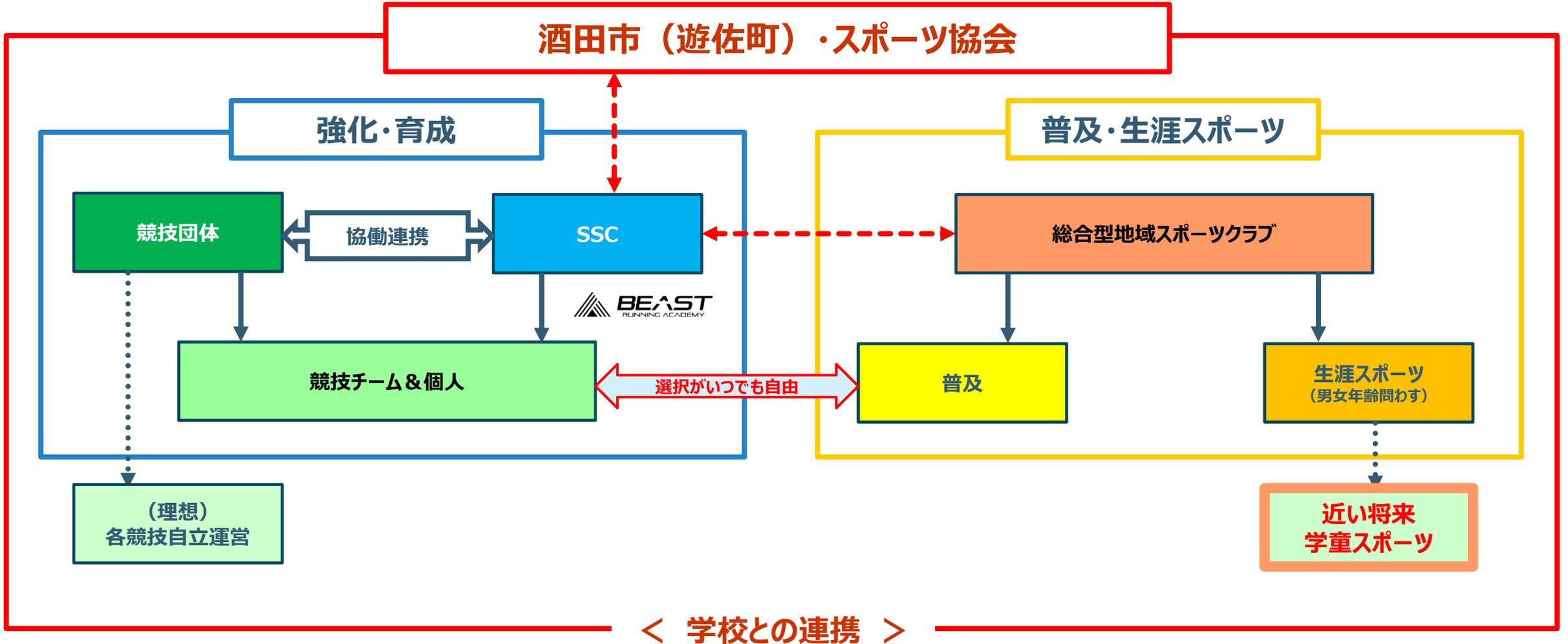
指導者主体 × → プレーヤーズファースト × → 『プレーヤーズセンタード』 ○



“ プレーヤーズセンタード ”

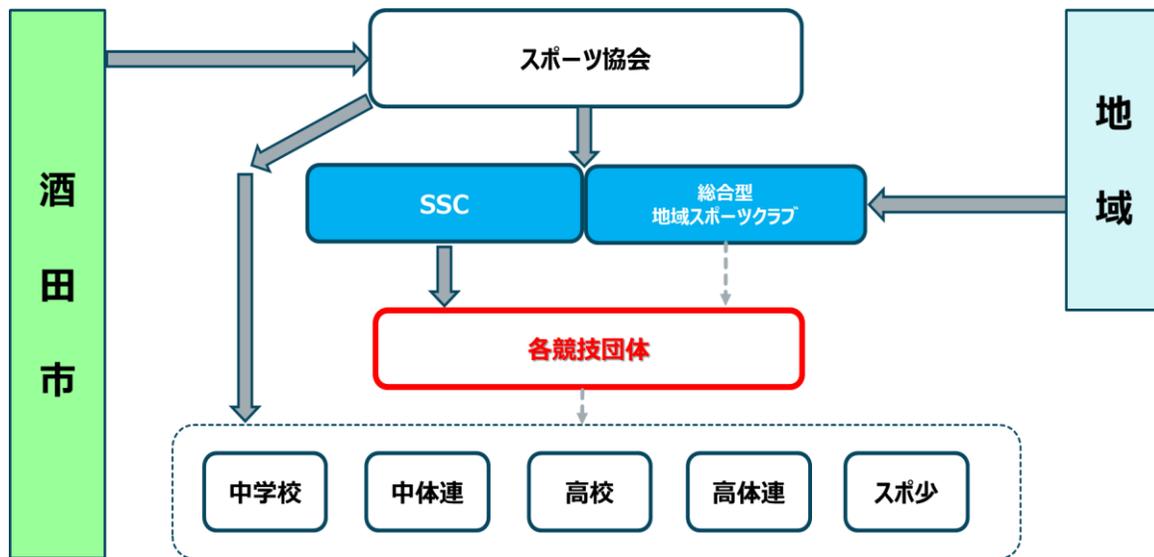
指導者やスタッフ・フロントはプレーヤーの主体的な学びを支援する存在であり、指導者やスタッフ・フロントとプレーヤーは師弟関係ではなく、互いに影響し合うパートナー。

# 【提案】 SSCが推奨する体制



# (構想) 酒田市とSSCの役割分担

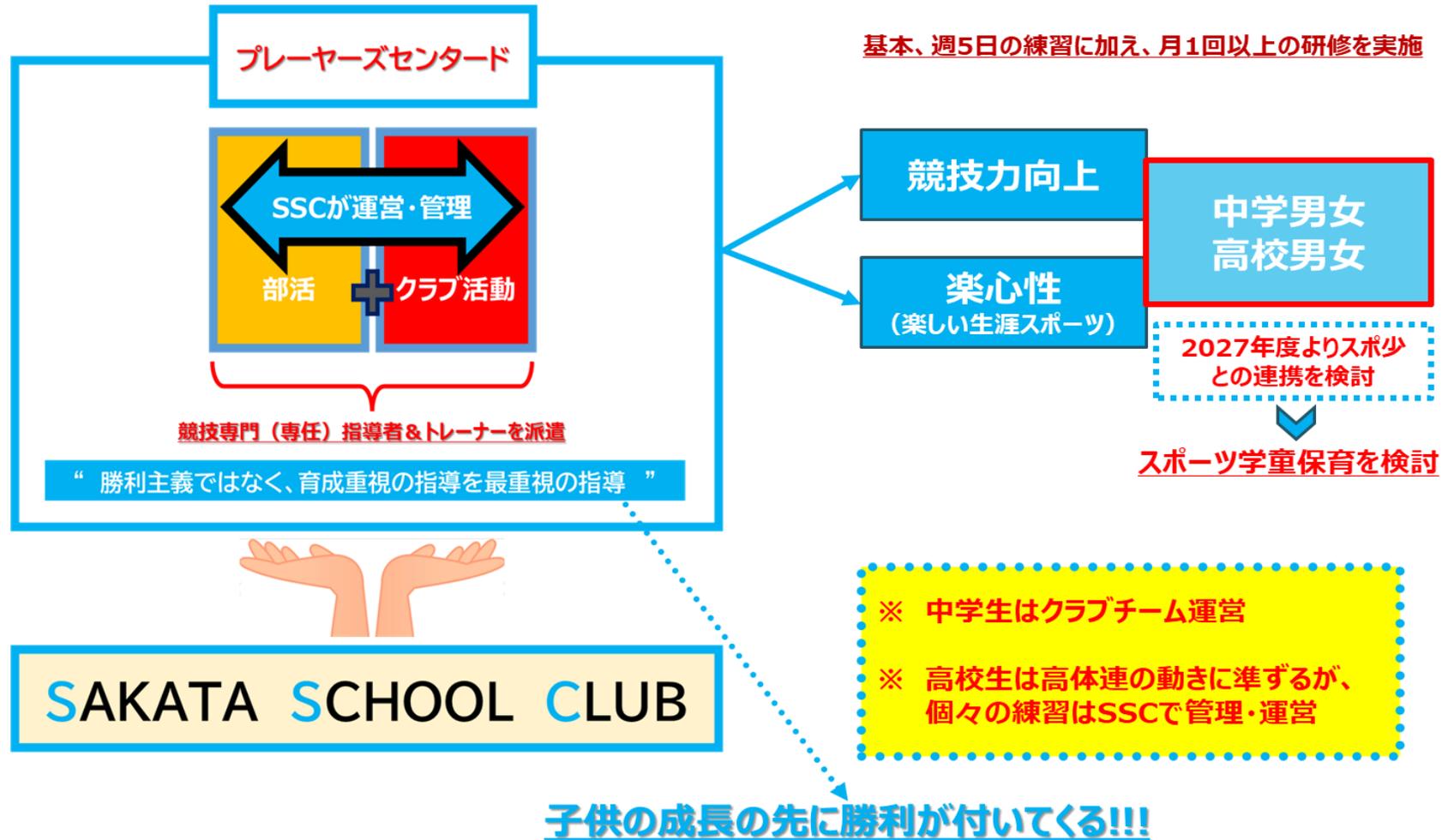
## 酒田市及び関係各所との役割分担



## SSCの役目

管理体制	<ul style="list-style-type: none"><li>各競技へ管理責任者を置き、子供・指導者・TRも含め管理していく</li><li>指導者とTRは、各競技団体の資格保有者に限る 加えて、SSCのライセンスに合格した方に限る</li></ul>
運営体制	<ul style="list-style-type: none"><li>プレーヤーズセンターで、勝利主義にせず子供の成長を最優先にする</li><li>練習及びコンディション管理の徹底（日報は必須）</li></ul>
計画的な強化	練習計画・スケジュールをオープンにし、透明性のある育成を行う
コンディション管理	トレーナーの管理下、セルフケアによる安定したコンディションの構築
アスリート研修	食管理・SNS・ドーピング・人間教育、アスリート研修により向上していく
指導者育成	指導者やTRは、日々指導技術が向上することに努める

# SSC運営イメージ



# 【計画】会費や条件面

## 年間費

入会時又は新年度に収める

1.2万円～1.8万円/年

- 中学生男女 ¥12,000/人
- 高校生男女 ¥18,000/人

## 月謝

毎月（月初）収める

1万円～1.5万円/月

- 中学生男女 ¥10,000/人
- 高校生男女 ¥15,000/人

## 自己負担

### 競技や個人により変動

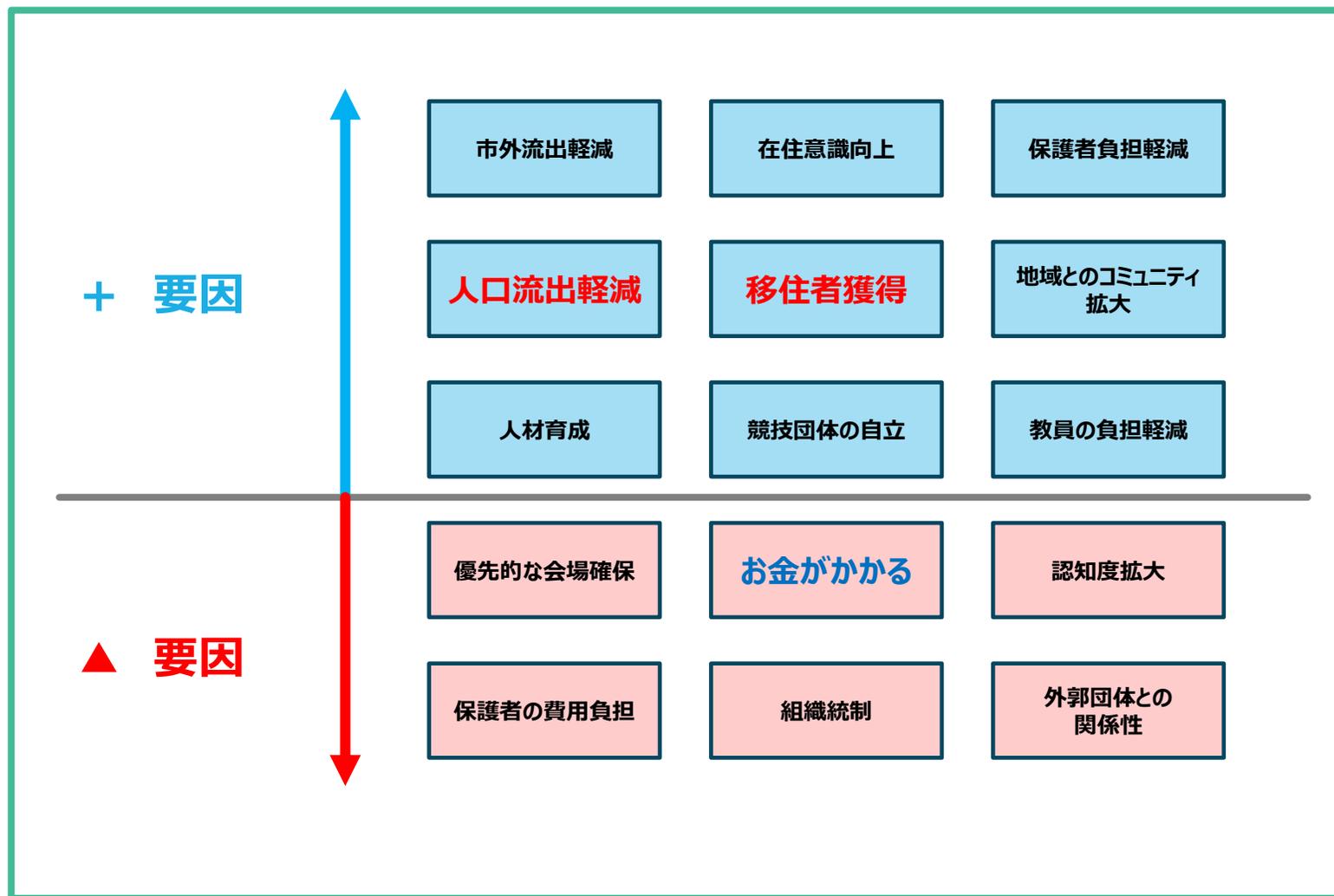
- 登録費はSSCが負担
- 遠征費は大会時SSCが一部負担
- ユニフォームはSSCが負担（予定）  
（他のウェア、シューズは個人負担）
- 用具はSSCが負担

### < 補則 >

- 諸事情により会費が支払えない方は、SSCが認めた方に限り、無利息の貸付も可能。  
将来、酒田市へ就職もしくはSSCへ入職の場合は返済は不要とする。
- 大会遠征費の無償化、ウェアやシューズなどはメーカーとの連携により保護者の負担軽減を目指す。
- 月謝及び入会金については、当該年度の協賛金に応じて変動することもある。  
また、各競技単独への協賛の場合、競技により変動する場合もある。
- 年間費は、各競技カテゴリーでの用具、消耗品、運営費の一部で活用する。

3年目より、指導者とトレーナーの person 費は会費で拠出予定

# 構想（改革）の効果



## < 効果 >

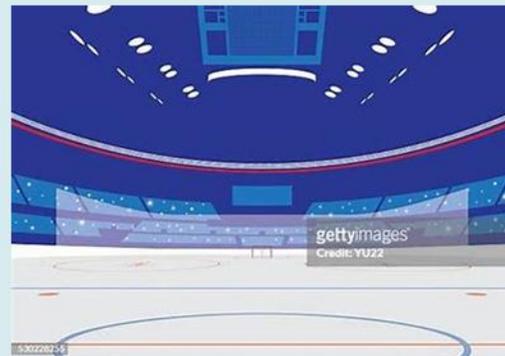
1. 在任意識の向上
2. 人口流出の食い止め
3. 子供の生活の健全化
4. 地域コミュニティの確立
5. 移住者獲得
6. 女性働き方改革の手助け
7. 教員の働き方改革への貢献
8. 庄内の中心的存在

# 【夢∞】SPORTS AMUSEMENT PARK 設立

## 「Sports Amusement Park」 (未来ある子供達が夢を抱え、集う場所の創設)

温暖化対策：カーボンニュートラルを導入した施設&設備の導入

### Sakata Sports Amusement Park



### ランニングコース

